

令和4年度国際学会発表支援成果報告書

No.1

【所属】	医学学研究科	博士課程	4年	(実験病態病理学分野)
【氏名】	Dina Mohammed Mourad Saleh (ディナモハメッド・マラッド・サリ-)			
【主催機関(国名)】	オランダ	(国名) マーストリヒト		
【学会の名称】	ICT 2022 THE XVI TH INTERNATIONAL CONGRESS OF TOXICOLOGY (ICT2022第15回国際毒性学会総会)			
発表形式	①口頭発表	2.ポスターセッション	3.その他(使用言語: 英語)	
研究発表報告	<input type="checkbox"/> 学会のテーマ・様子 International congress of Toxicology ICT (EURO TOX and IUTOX 2022) in Maastricht, The Netherlands.(Uniting In Toxicology)			
	<input type="checkbox"/> 研究発表内容 This is the first 2-year <i>in vivo</i> study to investigate the effects of 3 different sizes of double walled carbon nanotubes (DWCNTs) in the lung and pleura after pulmonary exposure. Rats were divided into six groups: Untreated, Vehicle, and 3 length groups of DWCNT (1 μ m, 7 μ m and 15 μ m) and MWCNT-7 (0.5mg/rat). The test materials were administrated by intratracheal - intrapulmonary spraying method (TIPS) every other day for 15 days. Rats were observed without further treatment until sacrifice at weeks 6 and 104.			
	<input type="checkbox"/> 感想 The participation in ICT 2022 THE XVI TH INTERNATIONAL CONGRESS OF TOXICOLOGY is considered to be the best opportunity to exchange useful information on this TIPS evaluation method and the toxic effects and carcinogenicity of nanomaterials with the world's leading researchers in this field it and allowed me to learn new updates in the toxicology field.			
				

令和4年度国際学会発表支援成果報告書

No.2

【所属】	芸術工学研究科 博士後期課程 3年（情報環境デザイン領域）
【氏名】	須藤 信
【国名】	イギリス
【学会の名称】	2022 44th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine & Biology Society（第44回国際生体医工学学会）
発表形式	1.口頭発表 2.ポスターセッション 3.その他（使用言語：英語）

研究発表報告

□ 学会のテーマ・様子

大会のテーマは“Biomedical Engineering transforming the provision of healthcare: promoting wellness through personalized & predictable provision at the point of care（ヘルスケア提供を変革する医用工学：医療現場での個別化および予測可能な提供によるウェルネスの促進）”となります。会場には多くの研究者が各国から集まっており、セッション中は活発な議論が行われていました。

□ 感想

今回、はじめて国際会議にて発表をした中で自身の発表方法やポスターの作りこみなどの改善点を知ることができました。また、これまで参加してきた学会とは異なり、幅広い専門分野の研究者が集まっており、違った視点で自身の研究を見つめなおす機会となりました。

私の英語能力の低さも同時に痛感したため、今後も英語の勉強を続けたいという気持ちが強くなりました。今後、継続して国際的な発表ができるように今回いただいた指摘や質問を参考にしながら、研究を進めていきたいと考えます。



【所属】	医学研究科	博士課程	2年（新生児・小児医学分野）
【氏名】	藤本 真徳		
【開催地】	アメリカ合衆国 ロサンゼルス		
【学会の名称】	The American Society of Human Genetics ANNUAL MEETING 2022 (アメリカ人類遺伝学会)		
発表形式	1.口頭発表 ②.ポスターセッション 3.その他		

研究発表報告

□ 学会のテーマ・様子

最新の知見や研究協力の提案など、普段の研究に結びようとする様子がみられた。日本の学会よりも積極的に研究者同士がコミュニケーションをとっている印象が印象的だった。

□ 成果

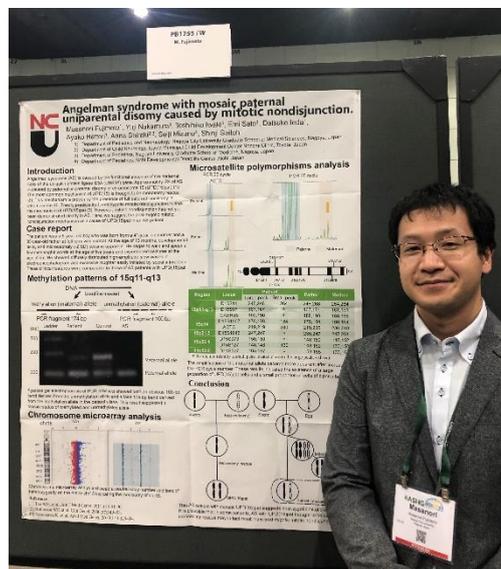
発表においては自身の発表に関連するインプリンティング疾患についてその他の発表者ともコミュニケーションをとり、エピジェネティクスの遺伝子編集など最新の知見を得ることができた。

また、ヒトiPS細胞由来の脳オルガノイドを作成している発表も聞き、世界的にどのようにして脳オルガノイドの作成・評価を行っているかを知ることができた。今後、自身の研究においてもとても参考になった。

□ 感想

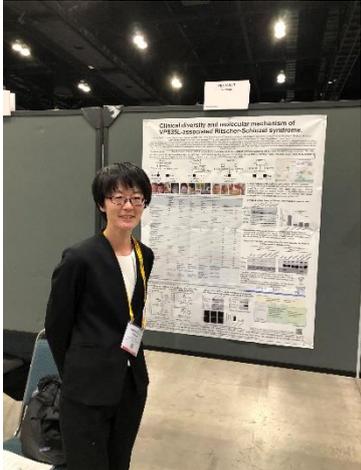
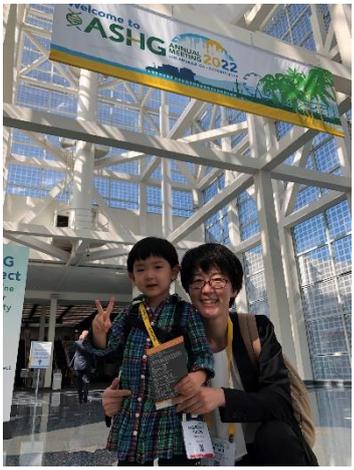
初めての海外学会・発表を経験することができました。

想像以上に海外学会では研究者同士がコミュニケーションをとって、研究につなげようとする姿勢が印象的でした。また、世界での遺伝子研究の最先端を知ることができ、今後の自身の研究においても参考にすると同時に、海外学会の場で今後も研究発表をし、積極的に海外の研究者ともコミュニケーションをとっていきたいと感じました。このような機会を与えて支援をいただきました、名古屋市立大学国際学会発表支援事業に深く感謝致します。



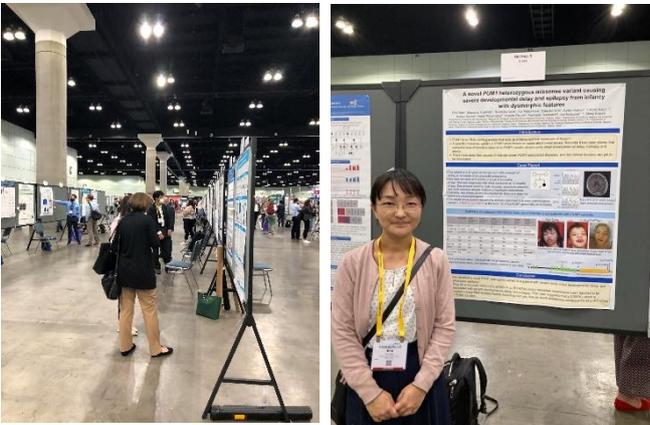
令和4年度国際学会発表支援成果報告書

No.4

【所属】	医学研究科	博士課程	3年（新生児小児医学分野）
【氏名】	大辻 塩見		
【開催地】	ロサンゼルス	（国名）アメリカ	
【学会の名称】	2022 American Society of Human Genetics Annual Meeting （米国人類遺伝学会2022年次総会）		
発表形式	2.ポスターセッション（使用言語：英語）		
研究発表題目	Clinical diversity and molecular mechanism of VPS35L-associated Ritscher-Schinzel syndrome. 〈和訳〉VPS35L関連リッチャー-スキンゼル症候群の臨床的多様性と分子機構		
□ 学会のテーマ・様子	“The culmination of a great deal of collective work and collaboration by many in the global human genetics and genomics community”		
□ 成果	自身の研究発表について海外の参加者にPRすることができた。脂質解析に興味を持ち質問される方が多かった。現在新たにSRSF7 (Splicing Factor, Serine/arginine-Rich, 7)のヘテロミスセンス変異の病原性について検討を開始しているが、同じファミリーのSRSF1のヘテロミスセンス変異について検証しているグループの発表を聞き、機能獲得型変異であること、同じ変異を導入したショウジョウバエにおいて網膜形成不全が確認されたことを報告しており参考になった。Splice-driven mechanisms of human genetic diseasesの招待講演を聞きこの分野の理解の助けになった。Featured Plenary Abstract SessionIIIでは各国の大規模研究とその結果について知った。		
□ 感想	ポスターセッションでは海外の若い研究者の発表を聞き、発想の柔軟さを感じた。口演、シンポジウム、いずれも女性の演者が多く、生き生きと発表している姿が印象に残った。 学会参加期間中こどもを誰にみてもらうかが悩みの種であるが、今回学会HPで託児所（学会が委託したKiddie Corp, Inc.が提供するチャイルドケアサービス）が開催されることを知り、3歳の娘が3日間お世話になった（娘の旅費・宿泊費は自費負担）。ゲスト登録したこどもも学会に参加でき、周囲を見渡すと、ベビーカーの乳児連れや子連れの参加者も散見された。配偶者の長時間勤務や両親の高齢化などの事情があっても海外での学会参加を諦める必要はないのだと勇気づけられた。		
			

令和4年度国際学会発表支援成果報告書

No.5

【所属】	医学 研究科 博士課程 3年（新生児・小児医学分野）
【氏名】	佐藤 恵美
【開催地】	ロサンゼルス （国名）アメリカ
【学会の名称】	American Society of Human Genetics 2022 Annual Meeting（米国人類遺伝学会2022）
発表形式	1.口頭発表 ②.ポスターセッション 3.その他 （使用言語：英語）
研究発表報告	
<p>□ 学会のテーマ・様子</p> <p>アメリカのロサンゼルスで開催された、国際学会ASHG2022 Annual Meetingに参加しました。米国49州、世界84カ国から、遺伝学やゲノミクスに携わる機関や研究者等が参加しており、最先端の科学的知見や技術に触れる貴重な機会となりました。国際学会は初めての参加であり、現地開催の学会参加も久しぶりだったため、まずは会場の熱気を肌で感じられました。また参加者同士で臨床研究や基礎研究の成果を発表し熱く議論を交わしたり、他施設とのコラボレーションでさらに研究を発展させようと積極的に交流をしている姿を目の当たりにし、刺激を受け今後の自身の研究へのモチベーションを高めることにつながりました。</p>	
<p>□ 成果</p> <p>様々な専門性をもった遺伝学の研究者の他、社会学研究者の方からも質問を受け、議論を深めることができたことで、新たな気づきが得られました。発表を通して、今回の症例でも大学院で行っている研究においても、常に様々な視点からの考察が重要であることを強く感じました。</p>	
<p>□ 感想</p> <p>今回、このような貴重な機会を与えていただき、自身の今の研究を進める上でも非常に勉強となり、今後のモチベーションにもつながったと感じています。さらに、海外の方とコミュニケーションの機会を得られたこと、多くの素晴らしい研究成果、また研究者達に触れられたことは刺激的で大変有意義な時間となりました。</p>	
	

令和4年度国際学会発表支援成果報告書

No.6

【所属】	薬学研究科 博士課程 4年（医療機能薬学専攻 病院薬剤学分野）		
【氏名】	森 泰毅		
【開催地】	フロリダ州マイアミ	（国名）アメリカ	
【学会の名称】	23rd ISSM Scientific Meeting（第23回国際性機能学会学術会議）		
発表形式	①.口頭発表（使用言語：英語）	2.ポスターセッション	3.その他
□ 学会のテーマ・様子	<p>2022年10月27日～10月30日までマイアミで開催された23rd ISSM Scientific Meeting（第23回国際性機能学会学術会議）に参加させていただきました。世界中から多くの研究者が集い、基礎研究から臨床研究まで連日多くの発表が行われていました。発表内容もレベルが高く、特に基礎研究では勃起不全（ED）の新規治療ターゲットに関する報告が多く、今後の研究の参考になりました。</p>		
□ 研究発表内容	<p>私は赤色光応答性一酸化窒素（NO）ドナー「NORD-1」の神経性EDに対する効果について発表してまいりました。神経性EDは禪律性全摘術後に頻発し、難治性EDであることが知られています。その要因の一つとして、前立腺全摘術後の患者では勃起に重要な役割を果たすNOの産生が陰茎内において低下することが知られています。そのため、NO補充療法は有効である可能性がありますが、NOは全身性の副作用や半減期の短さなどの問題があります。これらの問題点を解決するためにNOの放出を光照射により、時間的・空間的に制御できるNORD-1の有効性を見出しました。今学会では神経性EDモデルラットに対し、NORD-1を投与した後に赤色光を照射すると勃起機能が改善されることを口頭発表で報告しました。また、神経性EDに対する新たな治療薬として間葉系幹細胞から内容成分のみを抽出した非細胞性製剤「骨髄由来幹細胞濾液（BSCL）」の有効性を見出し、今学会では神経性EDモデルラットに対してBSCLを投与すると勃起機能が改善することをポスター発表で報告しました。</p>		
□ 感想	<p>今回、このような学会に参加し、自身の研究について発表できたことは貴重な経験となりました。また、様々な研究者と議論する中で、自分の知識の至らなさや今後の研究の課題なども見え、非常に有意義な時間を過ごすことができました。学会参加の他にも、少しではありますが市内観光をすることができました。異国の文化や価値観に触れ、自分の視野を広げることができました。今回、国際学会発表支援をいただいてこのような学会に参加できたことに感謝いたします。を高めることができました。これからの研究生活では、今回得られた経験や自信を活かし、日々取り組んでまいりたいと思います。今回、このような貴重な機会を与えていただき、自身の今の研究を進める上でも非常に勉強となり、今後のモチベーションにもつながったと感じています。さらに、海外の方とコミュニケーションの機会を得られたこと、多くの素晴らしい研究成果、また研究者達に触れられたことは刺激的で大変有意義な時間となりました。</p>		
			

令和4年度国際学会発表支援成果報告書

No.7

【所属】	薬学研究科 博士課程 4年（医療機能薬学専攻 病院薬剤学分野）
【氏名】	諏訪部 晋
【開催地】	ミネソタ州ミネアポリス (国名) アメリカ
【学会の名称】	The Globalization of Pharmaceutics Education Network (GPEN)2022 (薬剤学国際学会)
発表形式	1.口頭発表 ②.ポスターセッション 3.その他
<p><input type="checkbox"/> 学会のテーマ・様子</p> <p>私は、2022年10月19-22日に米国で開催された「The Globalization of Pharmaceutics Education Network (GPEN)2022」に国際学会支援制度を利用し、ポスター発表を行ってきました。この学会は、ドラッグデリバリーシステムや薬物動態といった薬剤学の分野について、世界中の研究者と議論を交わす学会です。学会中は、世界中の人々が発表時だけでなく、ブレイクタイムにも研究の話をしており、朝から晩まで活発に議論を行っているのが印象的でした。</p> <p><input type="checkbox"/> 研究発表内容</p> <p>私は、経鼻投与を介して難水溶性薬物を脳へ効率的にデリバリーするための製材技術についてポスター発表を行いました。</p> <p><input type="checkbox"/> 感想</p> <p>今回、初めての国際学会への参加ということもあり、英語で研究内容の説明やディスカッションを行なうことに、大変苦労しました。特にディスカッションでは、自分の言いたいことを相手にスムーズに伝えることができず、英語力の低さを痛感しました。また、学会では、著名な先生方の講演や他国の研究者と議論を行なうことができ、研究へのモチベーションが刺激されました。今後もこのような国際的な場に積極的に参加し、自分の研究を世界に発信したり、最先端の知見を学んだりしたいと思います。</p>	
	